

令和２年度第２回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和２年１１月２４日（火）１４時１５分～

場所：リブラ若狹２階 講堂

１ 開会

２ あいさつ

- ・福井県交通まちづくり課 西野課長

３ 議事

（１）網形成計画の各事業の進捗について

資料１に基づき、事務局から説明

事務局

- ・事業１「公共交通の利便性向上」のNo.１～３について、今年春のダイヤ改正により小浜線のダイヤの見直しがあり利便性の高いものになってきている。No.２、３については引き続き検討が必要ということで、鉄道ワーキングによって検討させていただく。
- ・No.４について、１２月に嶺南振興局において試験的に三方五湖周辺においてバスを運行予定となっている。若狹町の三方・熊川の補完バスについては、後ほど若狹町から説明がある。
- ・No.５、６について、小浜線のダイヤ改正に合わせてバスダイヤやルートの見直しをしている。
- ・No.７について、嶺南地域において公共交通会議が開催された際に、各市町の会議資料の送付をお願いしており、情報共有を図っている。引き続き会議終了後に資料送付をお願いしたい。
- ・No.８について、小浜市、おおい町がデマンドバスの導入を検討しており、後ほどそれぞれ説明がある。
- ・No.９について、12/6 に福井市の北陸自動車学校でバスの運転体験会を開催予定である。
- ・No.１０、１１について、新幹線開業にあわせてコミバスのキャッシュレス化が各市町において検討されている。高浜町においてはグリーンスローモビリティ実証運行に向けて、町内協議会を９月に設立したところ。こちらも後ほど説明がある。
- ・事業２「まちづくりと連携した施策の展開」のNo.１２について、新幹線開業に合わせて駅前の道路整備を敦賀市のほうで進めている。
- ・No.１３では、若狹本郷駅での駐輪場改修、十村駅のトイレの改修が予定されている。

- ・事業3「公共交通サービス情報の充実」のNo.14について、現在、嶺南地域の路線全体が分かる乗り換えマップを作成しているところであり、年度末までに完成したいと考えている。
- ・No.15について、嶺南広域行政組合で、敦賀駅にデジタルサイネージの設置を検討しており、駅舎工事に合わせて進めていく予定になっている。
- ・No.16については引き続き検討となっている。
- ・No.17について、福鉄バス、大和交通が今年度Google検索に対応した。引き続き、コミュニティバスについても市町で対応を進めていただいているところであるが、特にGoogleは利用が多いため、対応をお願いしたい。
- ・No.18について、敦賀市がインスタグラムを活用した「つるがバスさんぽ」という事業を実施している。
- ・事業4「観光周遊手段の提供」のNo.19について、三方五湖エリア全体協議会において、三方五湖広域バスの実証事業について検討中である。後ほど嶺南振興局から説明がある。
- ・No.20について、10月に丹後くろまつ号の小浜線乗り入れがあり、おかげさまで即日完売となったと聞いている。今年度で2回目である。他に南北モニターツアーの開催などを実施している。
- ・No.21について、11/23までレストランバスの有料運行を実施している。こちらは今年度初めての事業ということもあり、嶺南振興局から説明させていただく。
- ・No.22について、引き続き、鉄道、バスワーキングの中で検討していく。
- ・No.23について、嶺南Eコースト計画が今年3月に策定され、その計画に基づきEVを使ったカーシェア実証事業を行っている。別に資料があるため、後ほど説明させていただく。
- ・No.24について、敦賀市が今年NTTドコモのバイクシェアを導入したということで、引き続き運用を継続していく。また、三方五湖エリアでサイクルツーリズムを推進するため、今後道路の案内表示等の整備を進めていく予定となっている。
- ・No.25について、南北モニターツアーに合わせて小浜線利用促進協議会がフリーペーパーを配布している。
- ・事業5「公共交通利用を促進する意識の醸成」のNo.26について、小浜線沿線スタンプラリー事業の実施や、小浜線利用ガイドマップを改訂し、3月までに配布予定となっている。
- ・No.27について、小浜線を利用する親子を対象に「北陸おでかけパス」の購入費を補助したり、通学通勤定期モニター事業として定期代を1か月間無料にしたりするという事業を進めている。
- ・No.28について、事業所向けも同様の事業を行っている。
- ・No.29について、十村駅で住民団体を設立し、駅の活性化を進めている。
- ・No.30について、小浜線促進協議会で小浜線トートバックを作成した。

- ・No.31について、沿線市町において、回数券・団体利用者・高校生の通学定期購入に対し助成をしており、引き続き行っていく。
- ・続いて、EVを活用したカーシェア実証事業について説明させていただく。嶺南Eコースト計画に基づき、嶺南各市町に1台ずつEV自動車を置いてカーシェアを実施している。実施期間は令和6年3月までで、利用はスマートフォンアプリ「Patto」を使っている。初回登録については各種情報を入力するのに時間がかかるが、一度登録すれば次からは非常に利用しやすいものになっているため、ぜひ御利用いただきたい。

嶺南プロジェクト推進室

- ・続いてレストランバスについて説明させていただく。事業4「観光周遊手段の提供」の「特徴あるバス車両の運行」に基づき実施している。レストランバスは1階がキッチン、2階が座席になっており、全国に6台しかない。それをお借りして運行した。地元の業者にお願ひし、地元の食材を使った料理を提供した。8コース、20便設定し、実施時期は10/31～11/23の間の15日間、定員は各コース25名だった。GoToトラベルの対象になるということで、35%割引で今回は実施した。発着が敦賀のものと小浜のものがあり、短時間のコースはどちらかというと売れ行きが悪かったが、すべて完売したため、好調な売れ行きであったと思う。昨日終了したところであり、関係者の方々と今回の結果を踏まえて、県としては、今後も引き続きやっていきたいと思っている。

川本会長

- ・これまでの説明について、何か御意見や御質問等あるか。
- ・なければ私の方からお伺いする。レストランバスの利用状況について、県内外の状況はどうであったか。

嶺南プロジェクト推進室

- ・途中経過のものになるが、概ね96%が県内の方で、そのうち7割が嶺北地域、3割が嶺南地域であった。

川本会長

- ・コロナのこともあるため、県外からというのは難しい面があるにせよ、嶺北の人が嶺南地域に訪れるきっかけになっているといえる。
- ・他になければ、もう一点、事業2のところで、若狭本郷駅のロードヒーティングの改修について教えていただきたい。

おおい町

- ・もともとあったヒーティングを長期間使って支障が生じたため、今回修繕するというもの。

(2) 網形成計画の達成状況について

資料2に基づき、事務局から説明

事務局

- ・網計画においては数値目標を定めており、小浜線の年間利用者数やバスの年間利用者数等が指標になっている。小浜線利用者数については、元年度は30年度と比べ、若干落ち込んでいる。コロナの影響を受ける前の時期になるため、現在はさらに減少していることが予想されるが、今後も目標の達成に向けて努力してまいりたいと考えている。バスについては、目標は現状維持となっており、元年度については概ね現状維持となった。
- ・観光周遊に利用できる公共交通の確保の項目については、公共交通を使って観光地を回る観光客の割合が指標になっているが、昨年度は調査を実施していない。経路検索サイトへは、全路線が何らかの経路検索サイトに掲載された。引き続き、複数の経路検索サイト、特にGoogleに対応するようお願いしたい。レンタサイクル利用者数については、若干減となっているが、今後、三方五湖サイクリングコースの整備を進めていく予定になっている。
- ・モビリティマネジメントの実施件数については、目標が50件となっているが、現状は約半分の23件となっている。小浜市は積極的にやっていたいと思っているが、実績のない市町もあるため、ぜひ取り組みを行っていただきたい。

川本会長

- ・事務局から計画の達成状況について説明いただいたところであるが、ここで事業者の方から、現在の利用者の状況やコロナウイルス感染症対策への取り組み、今後の利用見込み等についてお話を伺いたい。

J R 西日本

- ・網計画事業のひとつである観光周遊手段の提供として、10/2 から 10/4 にかけて、丹後くろまつ号の小浜線乗り入れを実施させていただいた。県や市町の方と連携し、敦賀を起点とする広域観光の促進や、地域の魅力発信等に取り組むことができたのはありがたいことだと思っている。また、若狭湾観光連盟様のご協力のもと、くろまつ号の運行にあわせて、FAMトリップということで、海外のインフルエンサーの方に情報発信いただく機会を設け、インバウンド向けに地域の魅力発信につなげることができた。今後も機会を捉えてアピールしていきたいと思っている。

- ・昨今の弊社の経営状況については、会社発足以来の大きな赤字となっている。昨年度は連結決算で1兆5千億の売り上げがあったが今年度は9千億程度にとどまる見込みである。上半期だけで6千億を超える借り入れをおこなっている。
- ・小浜線についても利用実績は減少傾向にある。平均通過人員も1千人を切る状況まで落ち込んでおり、コロナの影響でさらなる落ち込みを懸念している。鉄道は固定費率が高く、その中で構造的なコストカットが喫緊の課題となっている。
- ・コロナ対策としては、車内の空調装置の稼働、窓を開けての換気、車両清掃時の消毒の徹底に加え、抗ウイルス抗菌剤の噴霧をすべての車両に行っている。駅においても、券売機など乗客が触れるところには車両と同じ抗ウイルス抗菌剤の噴霧を予定している。また、駅係員のマスクの着用等もしっかり行っている。
- ・ご利用状況について、緩やかな回復傾向にあるのは間違いないが、少しずつ日常を取り戻す必要があると思う反面、元の利用状況に戻ることは難しいと考えている。皆様と一緒に公共交通にしっかりと向き合い、引き続き御支援賜りたい。

事務局

- ・補足させていただく。令和2年度の県の一般会計の予算規模は4千8百億円となっており、先ほどの数字は相当のボリュームということが言える。

西日本ジェイアールバス

- ・会社としては高速線の運輸収入が全体の8割を占めており、JR西日本の話にもあったが、数字の規模は会社としてはかなり大きいもので、コロナの影響により、初めて親会社から20億円超の借り入れを行い、この先の経営を凌いでいこうと取り組んでいる状況である。
- ・若江線は補助金もいただき運行しているが、コロナの中これまで運休せずにやってきている。
- ・コロナ対策としては、車内抗ウイルス抗菌処置、走行中の換気、乗車口のハンドジェル設置やマスク利用の促進、運転席横にビニールカーテン設置、運転席後ろの座席は運転士、乗客の感染防止のため使用停止にしている。運転士の数が限られているため、インフルエンザ同様運転士が感染すると運行ができなくなるという危機的な状況になるため、運転士の健康管理については厳しく行っている。冬場はインフルエンザ感染の恐れもあるため、予防接種は家族を含めて、全額会社負担で行っている。
- ・高速線の戻りは芳しくないということと、近江今津営業所の状況では対前年度と比較し50%程度しか戻っていない。この3連休も回復傾向は弱かったと感じている。
- ・些細なこともでも取り組めることがあれば皆様と協力してやっていきたい。

福鉄バス

- ・ 現行の路線バスの状況は、7、8、9月の夏休み、海水浴期間の落ち込みが非常に大きくなっている。コロナ対策としては、空気感染に関して、車内に空気触媒を施工し、手指消毒用のアルコールをバス入り口に設置し、消毒後に乗車していただく、コロナを持ち込ませないというやり方を徹底した。飛沫感染についてはマスク着用を呼びかけている。路線バスには空気を入れ替える強制排気の装置がないため、長く乗降がない場合は乗車口と降車口を開けて空気の入替えを行った。
- ・ 運行本数はこれまでも最低限のものになっており、減らすことはなく運行させていただいた。
- ・ 路線バスの赤字を埋めるには貸切バスと高速バスがあるが、貸切については県の半額キャンペーンやG o T oトラベルもあったが、一方で修学旅行もすべての小学校が県内で1泊2日となり、稼働率は上がっても売り上げは減っている状況である。高校についても期待していたが、各地でコロナの発生が相次いでおり、当社予約受付分はすべてキャンセルとなっており、貸切については大きな欠損となる見込みである。高速バスについても東京線はすべて運休を継続、大阪線は運行していたが、G o T oトラベルで対象外となれば運休を余儀なくされる。名古屋線については減便して運行しており、運休はまだ決まっていない。
- ・ 運転手不足については12月の運転体験会に伴い乗務員を募集したいが、120名のうち3分の1が高齢の契約運転手となっており、15名の欠員を抱え、運転手不足は今後の路線継続のためにも大きな課題になっている。

大和交通

- ・ 資料には昨年度の実績として4万人という数字が記載されているが、この9月での実績は3万人台を割り込んでいる。原因としては、コロナの影響が大きいことと、高校生の絶対数や運転免許を持たない高齢者が減っていることがあげられる。
- ・ 名田庄地区にはバスのダイヤ表を全戸配布しており、その中で国・県・地元自治体の支援によりバスが運行されていることを記載している。乗車密度が低くなると廃線になる可能性があることも説明しているが好転する兆しはない。ただ3年ほど前に本地区に対しアンケートをしたところ、「今はバスに乗らないが、将来は乗るので残してほしい」という意見はたくさんあった。今後も公共交通機関として継続していくことが使命であると考えている。
- ・ コロナ対策については、各社とよく似た状況。飛沫感染防止のためにマスク着用や運転席の周りをビニールシートで囲む、運転席後ろの席をあけるなど、行っている。走行時の窓の開放や、乗車口のところでの手指消毒、乗務員による消毒も時間があれば何度も行っている。9月にすべてのバス車両の空気触媒によるコーティングを行った。当社は路線バス以外の事業も行っていて営業所が複数にまたがっているが、営業所間の職員が会わないように休憩室を分ける工夫をしている。

川本会長

- ・寒さの中でコロナ対策をとることは難しいと思う。それぞれ考えられる対策は取っていると思うが、利用者がなかなか元に戻ってこない。これが長く続くと、今は公共交通に乗らないが今後のことを考えると不安を大きくしてしまうことがある。これ乗り越えるため、利用者を増やす、機会を増やすようなことを考えなければならない。

(3) 網形成計画の各事業の今後の取組みについて

資料3に基づき、市町等から説明

敦賀市

- ・敦賀市では、公共交通として3つの柱があると考えており、市民の足となるコミバス、観光やショッピングのためのぐるっと敦賀周遊バス、観光客を中心としたシェアサイクルがある。4月から運用を開始しているシェアサイクル拠点整備事業について説明させていただく。
- ・シェアサイクル拠点整備では中心市街地に無人で自転車を貸出返却できるサイクルポートを9か所整備した。二次交通を充実させることで、観光客の回遊性向上につなげることを目的としている。簡単にいうと、敦賀駅から金ヶ崎周辺、港エリアまで足を運んでもらうために充実させたもの。
- ・整備費用は2,348万5千円で、9か所のポート整備とシステム構築費となっており、2分の1の国庫補助が入っている。自転車購入費は市の予算となり、990万円で、電動アシスト自転車60台を購入している。
- ・敦賀駅から8、9番のポートがある金ヶ崎エリア、赤レンガ倉庫や先日リニューアルオープンした人道の港敦賀ムゼウムまで行っていただきたいと思っている。
- ・シェアサイクルシステムはクレジットカードや電子マネー決済に対応している。現金対応希望には、敦賀駅オルパーク観光案内所に対応している。
- ・料金は1回60分までが200円、以降30分ごとに100円ずつ加算される。有人窓口では1日パスを1500円で販売している。
- ・管理運営については、24時間営業が全国的に主だが、飲酒する場合もあるため、5～24時までとしており、NTTドコモ系の業者に委託料を支払っている。
- ・旧システムの令和元年度の利用者数の実績は4千人程度で、令和2年度は、認知度は上がっているがコロナの影響もあり、前年度並みの実績になるのではと考えている。

小浜市

- ・小浜市では令和3年から5年度までの予定で、公共交通活性化、デマンド化検討事

業として、市内公共交通の課題解決に向け、事業実施を予定している。現行のあいあいバスについて、バス停まで距離があること、ダイヤが希望に合いづらいということで移動需要を満たせていないことがある一方で、学生が通学手段として利用しており、利便性向上も求められている。今後の新幹線開業を見据えると、観光客にも利用しやすい公共交通を整備することが必要であると考えている。

- ・目指す姿として、通学時間帯は今のバス運行を継続し、昼間時間帯のみ乗用車タイプのデマンド交通を導入したいと考えている。既存のバス停に加え、さらに細かくバス停を設定し、ダイヤも細かく設定できればと思っている。予約方法は電話のほかに、ウェブやアプリなどにも対応したい。
- ・朝夕は定時定路線バス5台で運行を維持し、日中はデマンド交通として乗用車3台が市内全域を運行する。朝、バスを運転している乗務員が日中はデマンド車両を運行することを想定している。
- ・まずは内外海地区で日中のみデマンド実証を1か月間車両1台で行い、ランニングコストや利便性向上が図られるか、持続可能なシステムになるかどうかなど見極めたい。
- ・スケジュールとしては、3年度はシステム導入の計画策定、4年度は実証運行と結果の分析、5年度に市内全域でのデマンド交通導入となっている。

美浜町

- ・現在、美浜町のコミバスの利用者数は全体的に減少しており、高校生の通学利用が減っていることが主な要因になっている。平成27年度から、一部デマンド運行を開始したが、利用者は減少傾向となっている。
- ・こうした現状を受け、高校生の通学に配慮するとともに、小浜線や福鉄バスへの乗り継ぎを確実にを行うため、ダイヤの見直しを実施することとした。
- ・また、運行経路を工夫することで、運行にかかる時間距離を短縮し、予約便の締め切り時間を90分前から60分前までに短縮を図るとともに、停留所の移設や利用のないところの廃止、名称をわかりやすく変更すること、3年度完成予定の道の駅に美浜駅起点のハブ式運行を実施することなど、これらの方針に基づき、見直しを検討し、11月から見直し後の内容で運行している。今後は見直し後の状況を見て、検証することとなっている。
- ・にぎわいゾーン整備について、美浜駅から美浜町役場までのエリアをにぎわいゾーンとして位置づけ、美浜駅前に道の駅の建設を進めている。屋根付きイベント広場の設置や、多目的利用可能な軒下を設置するなど、人が駅前に集まってにぎわうよう計画を進めているところ。バスのハブ式運行ということで、交通結節点機能を強化することも計画している。
- ・今年度中に用地取得や基本設計を進め、来年度から工事に入り、3年度末に完成、4年度にオープンできるよう進めているところである。

高浜町

- ・高浜町内には京都交通の高浜線、小浜線、高浜交通タクシーがあり、補完するものとして、平成24年から赤ふんバスを完全オンデマンドバスで走らせている。赤ふんバスは町内に浸透しており、利用者もある程度となっているが、デマンド式になじまないといういろいろな意見もあり、その一つとして、内浦ぐるりんバスの運行がある。内浦地区で法人をつくり、定時定路線、自家用有償運送で舞鶴市まで結んでおり、町でも支援している。
- ・赤ふんバスの課題として、完全予約制、不特定不特定路線であるため、利用は町内在住者に限定しており、観光客は観光協会が予約を代行している状況である。都度予約制、都度料金制のため、住民が郊外から市街地に赤ふんバスで外出した場合に、町としては病院や商店など市街地を回ってほしいと思っているが、一次利用にとどまっており、地域の活性化につながっていない。このため、グリーンスローモビリティを市街地で定期周遊させたいと考えている。
- ・高浜駅、和田駅の中心市街地で、令和3年度に実証実験、乗車は無料で2台運行したい。商工会、観光協会、シルバー人材センターで新たな法人を設立し運行主体となることを考えている。この三者に高浜交通、町が加わり、協議会を設立した。
- ・運行開始となると事務局は町が行い、運転はシルバー人材センターと一般募集を考えている。運転手不足ということで、普通運転免許でも運行可能な自家用有償運送での登録形態を目指している。
- ・ルート案としては、主要な施設を結ぶルートを協議会で検討している。小浜線の駅を基点とし、小浜線との連携を深められるようなまちづくりを進めたい。一番の狙いは、海の6次化施設が来年7月にオープン予定であり、駅からグリーンスローモビリティで観光客を運びたいと思っていることである。各地区60分で1周できる。
- ・現在は先進地視察を行っているところであり、1月には公共交通会議を開催したい。その後道路運送法の登録を済ませ、まず高浜地区で実証し、8月は海水浴シーズンで繁忙期となるため、和田地区で運行したい。12月に検証し、4年度以降につなげていきたい。

おおい町

- ・おおい町では平成30年度に住民アンケート調査を実施し、公共交通の再編に取り組んできた。今年7月に公共交通会議でデマンド交通の導入について合意を得られ、準備を進めている。
- ・運行方式はドアツードア型で、運行範囲は大飯地域。利用者は町民の登録者と、高浜町と同じように観光客で利用される方は観光協会が代理で申し込むことを考えている。

- ・運行日は土日祝日、年末年始を除く平日で、運行時間は午前7時30分から午後5時まで、車両は9人乗りのワゴン車2台を予定している。高齢者の利用を想定しており、佐分利地域と大島地域から中心部に向けての利用を想定している。
- ・予約受付については電話のほか、インターネットにも対応したい。受付は運行の2週間前から当日30分前まで対応したい。
- ・料金は1人当たり1回500円、小学生は半額、未就学児は無料。有料利用者が2名以上の場合は300円に割引くという料金体系になっている。
- ・現在、事業者でシステム導入に向けて進めているところであり、町でも今後愛称の募集やPR、利用者の事前登録などやりたいと思っている。来年4月から9月まで試行運行したのち、10月以降の本格運行につなげていく予定。

若狭町

- ・二次交通の実証事業として、敦賀駅から三方五湖エリアを結ぶ広域バスに連動するものを検討している。
- ・現状、課題としては、小浜線の運行間隔があいている時間帯があり、小浜線に接続する二次交通としては西日本ジェイアールバスと町のコミバスがあるが、観光客の誘客や、住民の移動手段を確保することが必要であると考えている。敦賀からの広域バスにつなげて、三方駅から熊川宿に向かうバスを、3年度から5年度にかけて、補完バスとして運行したいと考えている。熊川宿ではジェイアールバスが上中方面や近江今津方面を走っており、リンクさせながら観光客の足を考えたい。
- ・3年度は10日間実証運行し、公共交通会議で分析、検証をしたい。4年度、5年度には40日間運行ということで、運行するにはどの時期がいいのかなど、検討していきたい。

嶺南プロジェクト推進室

- ・三方五湖エリア全体協議会というものがあり、県、美浜町、若狭町、観光協会、商工会等がメンバーとなり、エリアの活性化を検討しており、ステップアッププログラムを作っている。これに基づき、三方五湖エリアにおける主要駅からの二次交通対策として、美浜駅、三方駅から周遊できるバスと、小浜線の運行間隔が長い時間帯を補完する敦賀駅から三方五湖エリアに向かうバスを組み合わせ、観光客等の利便性を向上させるということで、今年度、一度県で実証し、来年度、一般の乗客を乗せて実証したいと考えている。

川本会長

- ・御意見や御質問等はあるか。オブザーバーの方から何かないか。

舞鶴市

- ・舞鶴市でも同じような状況で公共交通の利用者の減少や運転手不足が著しい。舞鶴市としても今年度公共交通計画を策定するところであり、具体的な事業を盛り込む中でこの計画を参考にさせていただきたい。
- ・夏に嶺南振興局長が舞鶴市長に面会に来られた際に、舞鶴市を含め、若狭湾が一つになって観光振興を進めていくべきとの話があった。関係市町と連携して取組みを進めていきたいし、情報共有や意見交換をさせていただきたい。

川本会長

- ・今後も定期的にこういった形で進捗状況の確認や見直し、事業が動き始めてからの評価など、委員やオブザーバーの方から忌憚のない意見や情報提供などをお願いできればと思う。
- ・議事は以上になるが、他には何かないか。

福井運輸支局

- ・オブザーバーの立場から情報提供させていただく。地域公共交通活性化再生法について、11/27に施行予定となっている。網計画は新たに地域公共交通計画に移行することが予定されている。嶺南網計画は計画期間が令和6年度までであり、6年度までは新計画としてみなされる予定である。今後、大幅な見直しがある場合には新計画への移行をお願いしたい。
- ・そのほか主な改正点は、地方公共団体における公共交通計画の策定が努力義務化され、計画の中に定量的な目標の設定、例えば利用者数、収支に関するもの、自治体の負担額等を入れるよう言われている。
- ・毎年度の計画の評価について制度化すること、地域公共交通計画と補助制度との連動化が予定されている。バスの運行に関し、国の確保維持改善事業で運行費の補助を行っているところであるが、新しい計画に位置付けていただく必要がある。特に、嶺南地域においては、美浜町、若狭町はフィーダー補助があり、各町で計画を策定する方向で考えていただきたいが、即対応できない場合もあるかと思うので、嶺南網計画を活用する場合は、県や各市町、事業者との調整が必要となるため、あらかじめ御承知おきいただきたい。
- ・決まっていない部分もあるが、今後も情報提供させていただく。

4 閉会